



早稲田大学・東京都立大学名誉教授

浅倉むつ子さん

暴走とルール違反の政治

あさくら・むつこ
1948年生まれ。専門は労働法、ジェンダー法。日本労働法学会代表理事、ジェンダー法学会理事長を歴任。主な著書は『労働法とジェンダー』『雇用差別禁止法の展望』など多数。

菅義偉首相は、安倍晋三首相に輪をかけて、就任して以来、民主主義を軽視した無責任なふるまいを続けています。野党やマスメディアの質問にまともに答えようとしない。コロナ禍で苦しむ“がまん”得ない国民を説得するための、誠意のある言葉や真

を強いられざるを

剣さも感じられない。説明責任をまったく果たしていないのが菅政権です。

安倍政権とそれを継承する菅政権の8年間、私たちは、暴走とルール違反の政治を実体験してきました。

狙いは学界統制

菅政権の強権性を見事に表したのが、日本学術会議会員の任命拒否問題です。菅政権は、学術会議が財源的に国に依存していることを介入の論拠にしています。これは、国が金を出すなら裁判所にまで口出しできることになってしまう、あきれた論理です。そもそも、原資は国民の税金です。政権の自由にしているものではありません。菅政権の狙いは、学界への統制を強め、学術会議を経済的に枯渇させて発言力を奪い、政府の言いなりになる組織へと換骨奪胎することだと思えます。

学術会議は、「学問の自由」の保障のもとで、科学の成果を社会に還元するための組織です。研究者が倫理的に自らの行動を律しながら、社会の負託に応じようという使命感に基づいて、国に科学的助言をしてきました。

政府や企業から独立しているからこそ、学術会議では、誰かへの忖度（そんたく）をすることもなく、一人ひとりの研究者が学術研究の成果をもちより、議論をたたかわせてきました。その結果、質の高い提言をとりまとめることが可能だったのです。

女性の権利遠く

安倍政権や菅政権は、男女共同参画や女性活躍を口にしますが、女性の権利や人権を守ることへの理解と熱意はありません。だから、自民党内から「女はうそをつく」などと性暴力を正当化する人権侵害的な発言が再三、出てきてしまうのです。ジェンダー平等を理解せずに、女性が活躍しないと経済成長ができないという発想から、少子化対策の一環として女性の活用を打ち出しているだけではないでしょうか。

市民連合は、協調する野党に向けての政策要望として、ジェンダー平等を打ち出しました。市民連合が出した政策を実現する新しい連合政権づくりを大いに応援しています。

聞き手・若林 明 写真・佐藤光信

あさくら・むつこ 1948 年生まれ。専門は労働法、ジェンダー法。日本労働法学会代表理事、ジェンダー法学会理事長を歴任。主な著書は『労働法とジェンダー』『雇用差別禁止法の展望』など多数。

しんぶん赤旗  2021 年 1 月 13 日【1 面】